

# 月刊 社会保険 6

2017 VOL.803

一般社団法人  
全国社会保険協会連合会

## 日本年金機構からのお知らせ

耳が不自由などの理由で電話での年金相談が困難な方へのご案内について  
資金運用部会の設置について

予防・健康・医療・介護のガバナンス改革

保険者インセンティブについて

日本の将来推計人口(平成29年推計)―概要―

～平成24年推計と比較すると人口減少の速度や高齢化の進行度合は緩和～

介護保険内・外サービスの柔軟な組合せに関する意見(介護サービスの質と利用者満足度の向上に向けて)

雇用保険法等の一部を改正する法律の概要



日本年金機構からのお知らせ 耳が不自由などの理由で電話での年金相談が困難な方へのご案内について	4
資金運用部会の設置について	6
予防・健康・医療・介護のガバナンス改革	7
保険者インセンティブについて	10
日本の将来推計人口(平成29年推計)―概要― ～平成24年推計と比較すると人口減少の速度や高齢化の進行度合は緩和～	12
介護保険内・外サービスの柔軟な組合せに関する意見(介護サービスの質と利用者満足度の向上に向けて)	14
雇用保険法等の一部を改正する法律の概要	17
年金・健康保険委員活動報告 社会保険委員として今思うこと 伏木海陸運送株式会社取締役労働安全部長 <small>おおた よしあき</small> 太田 好昭	18
あの人 この人 私たち 第2回 風呂上がりに足元に気を付けよう エッセイスト <small>ふしかわ てつ ま</small> 藤川 鉄馬	20
書評 <small>あかがわ まなぶ</small> 赤川 学著『これが答えだ! 少子化問題』	23
損をしたくない人が損をしがちな心理学 第2回 「ポイント還元」に隠された罠 経済コラムニスト <small>おお え ひで き</small> 大江 英樹	24
自分らしく生きる社会とは 第8回 病気に自分らしさを妨げられることのない社会に〈がん治療と就労の両立を支援する③〉 NPO法人キャンサーリボンス委員・事務局長 <small>ひろせ みほ</small> 廣瀬 瑞穂	26
しなやかなからだづくり 第2回 笑いと長寿とエンドルフィン お茶の水健康長寿クリニック院長 <small>しらさわ たくじ</small> 白澤 卓二	28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30 / 年金保険編 32 / 介護保険編 34 / 労働保険編 36 特定社会保険労務士 <small>すずき</small> 鈴木 ひろみ	

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・水森亜土、寒河江智果/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)エイエヌオフセット

## 表紙のことば ―― 竹内敏信 「光の響」「鈴の小滝」

新潟県村上市高根



日本の滝百選にも選ばれている滝。

6月の梅雨時期ともなると、急な天候の変化などもあり撮影は困難ではある。しかし、ちょうどこの頃から川の水量が増え、滝を撮影するにはいい時期ではある。

新緑の美しい緑が育つと、その情景だけでも魅力あふれるものになる。すっきりと晴れる日は少ないけれど、その逆にコントラストを抑えて撮影できる利点もある。

季節ごとの情景を生かし、そのときの一番いい表情を見てあげたいものである。

© 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。



## 社会保険委員として今思うこと



伏木海陸運送株式会社取締役労働安全部長  
太田好昭

●はじめに  
富山県社会保険委員会連合会は、「高岡」「砺波」(県西部)、「富山」「魚津」(県東部)の4委員会で構成されており、私は高岡社会保険委員会に所属しています。

当委員会は、県西部地域の中核都市である高岡市と隣接する氷見市、射水市を含んだ地域のメンバーで構成されています。

私は、平成23年に年金委員を委嘱された未だ新米の委員でありながら、なんの因果か平成26年5月の総会で高岡社会保険委員会の副会長を拝命することになり、現在に至っています。

県の北西部にまたがる当地域の自慢といえば海・山の自然の恵みと祭りでしょうか。

伝統工芸高岡銅器に代表されるモノづくりの地域風土に加え、食文化、特に氷見といえば寒ブリが有名です。さらに、射水市の新湊の魚介類も双璧であり、シロエビ、紅ズワイ蟹など四季を通じて豊富な海の幸に山の幸、そして自然の景観、特に海越しに望む立山連峰の景観はいち押しです。

昨年3月に北陸新幹線が開業し、首都圏と近くなり観光客も増えました。しかし、在来線と新幹線の駅が一体化した金沢、富山の両駅に挟ま

れ、新幹線が分離駅となった「新高岡」には最速便「かがやき」が朝、夕の臨時便1本しか停車しないこともあり、開業効果は感じつつも、利便性という点ではものたりなさを感じる部分もあります。うれしさも中くらい、というのが地元民として率直な心境です。

一昨年映画化された「人生の約束」で観光地としても脚光を浴びることになった新湊。「曳山祭り」について昨年は、「高岡御車山祭りの御車山行事」が「魚津のたてもん行事」「城端の曳山行事」とともにユネスコの無形文化遺産に登録されました。

伏木の曳山祭りも別名「喧嘩山」祭りとしてつとに有名ですし、もともと観光やビジネス客を呼び込む不断努力が必要と感じています。

脱線しますが射水市が舞台になった映画「真昼の恋」が今春上映され、氷見が主な舞台となる来春上映予定の映画「おみおくり」も今撮影中というところで、県内はちよつとした映画化ラッシュになっています。

富山県民は地域自慢がへたといわれますが、この機会に興味を持たれた方は、是非一度お立ち寄りください。

●委員会活動について  
連合会の事業の主たるものとして年金委員と健康保険委員の表彰式のほか、特筆すべきものは年1回開催される「医療懇談会」が挙げられます。

これは被保険者の立場から医療に関して日頃疑問に思っていることを事前に各社会保険委員会を通じて提出してもらい、これらの質問に対して当日3師会(医科、歯科、薬剤師)から回答いただくものです。この「医療懇談会」は、他に例のないイベントとして注目されていると聞き及んでいます。

なお、年金委員・健康保険委員の表彰式に関しては、社会保険庁の解体により所管が異なるため年金委員と健康保険委員に分かれて以来、一昨年より合同の表彰式が行われることになりました。年金と健康保険は本来切っても切れない関係だと思っておりますので、「合同」で重複表彰をすること自体に、違和感というか未だ慣れていない部分があります。しかし、分かれたことをよいことと捉え、少しでも多くの事業所から多くの方に受賞していただき、多くの人に祝福してもらおうことが功労者の励みになり、後進への大きな動機づけになるものと思います。

### ●わが社の紹介

ここで、私が勤務している伏木海陸運送株式会社を紹介いたします。

弊社は伏木港、富山新港を拠点とする港湾運送事業を柱に、倉庫業、通関業、船舶代理店業、自動車運送事業等を営んでいます。

今年3月末で創立73年が経過しました。歴史の長さを自慢するわけはありませんが、今こうして当社があるのはいつの時代にも事業の公共性と社会的使命を認識し、地域に愛される企業を目指し、がんばってきたからと自負しております(あれ、結局自慢していますね)。

業種は「運送業」ですが「みなと」がわれわれの職場であり、これからも地元の企業を中心に「日本海側総合的拠点港」をもっともって使ってもらえるよう、「みなと」の利便性をさらに高め、サービスを充実させていきたいと考えています。蛇足ですが「北陸3県で唯一の企業チーム」として、社会人野球でもがんばっています。

チームの世話を仰せつかる立場の1人として特筆したいことは、ほぼ全員の選手が地元出身者であり、郷里で野球をつづけたという球児の受け皿としての役割を当社が果たしている点です。2006年に初めて都市対抗本選に出場以来、都市対抗

に3回、日本選手権は2回の出場を果たしています。2012年に3度目の東京ドームに出場して以来、あと1歩というところで全国大会への切符を逃しつづけてきましたが、今年も戦力もさらに充実し、5年ぶりの都市対抗野球本選出場、そして全国での勝利が合言葉です。

「田舎の無名な集団でもやればできるんだ」ということを是非全国に示せたら最高です。本稿が皆さんの目に触れる頃は、ちょうど第1次予選を突破し、北信越最終予選に挑もうとしている時期になるはずと思っております。関連記事を目にされた方、是非注目していただき、また応援いただければ幸いです。

### ●今後の社会保険活動について

国の「税と社会保障の一体改革」のもと、近年は毎年のように大きな制度改正やマイナンバー制導入等、新制度への対応を迫られており、業務に携わる者にとっては息つく暇がないというのが実感ではないでしょうか。

殊に職域型の年金委員、健康保険委員をされている方々は社会保険事務というよりも労務全般に関わる業務をされている方が大半であると思えますので、むしろ社会保険事務そ



伏木海陸運送株式会社

のものは割かれる時間にして、携わっている業務の中のほんの一部というほうが正確な捉え方になるかもしれません。

そしてそういった労務担当部門に居られる方にとって今は「働き方改革」が政府により主導され、「時短」特に昨年末の大手広告会社の事件以来、長時間労働の防止対策が社会的にも喫緊の課題となりつつあります。

すなわち36協定の見直しや労働時間管理の問題、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策等々安全衛生に関わる分野も社会保険と切り離すこと

はできず、相互にリンクしあう問題であることを再認識したうえで今後の社会保険委員会の活動も行っていく必要があるかと思われまます。

委員の方はますます大変な役割を担うわけですが、そういった意味で各地の社会保険委員会が今まで以上に交流の場として、また狭義の捉え方だけでなく労働に関わる諸問題の情報交換の場としてさらに発展していくことを願ってやみません。

全国の委員の皆様は今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

(高岡社会保険委員会副会長)